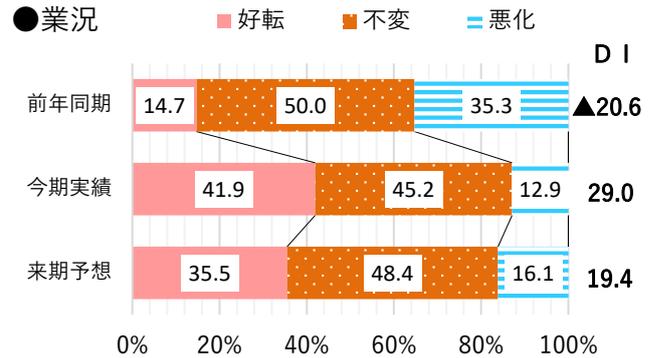


製造業

業況、売上、採算

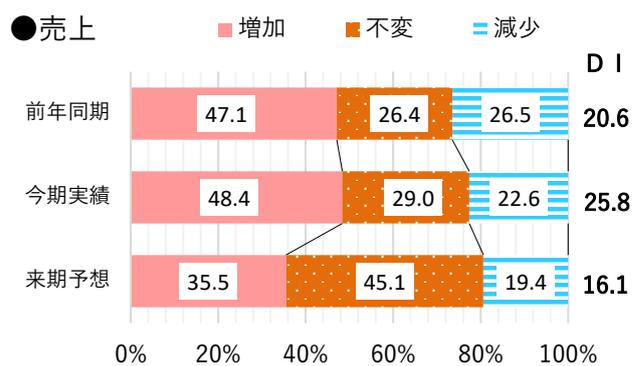
今期(2023.7~9)の業況判断DIは29.0で、前年同期(2022.7~9)と比べ49.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期(2023.10~12)は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



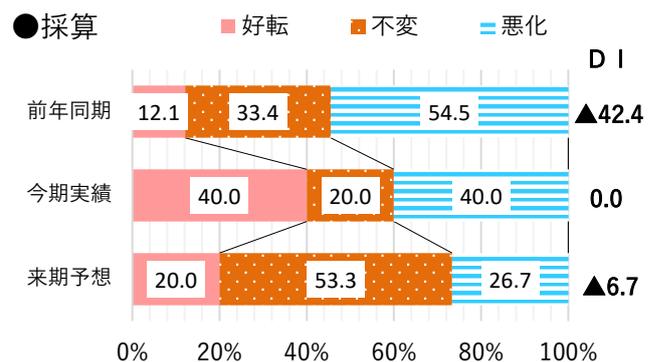
今期の売上DIは25.8で、前年同期と比べ5.2ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

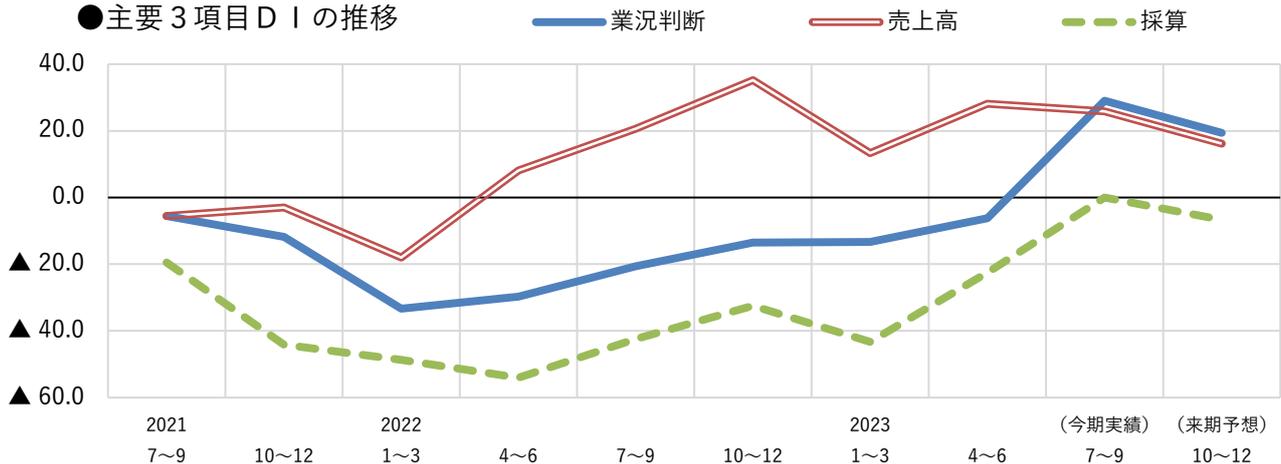


今期の採算DIは0.0で、前年同期と比べ42.4ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



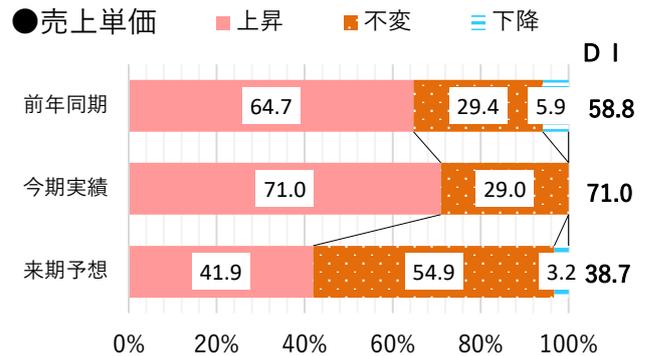
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

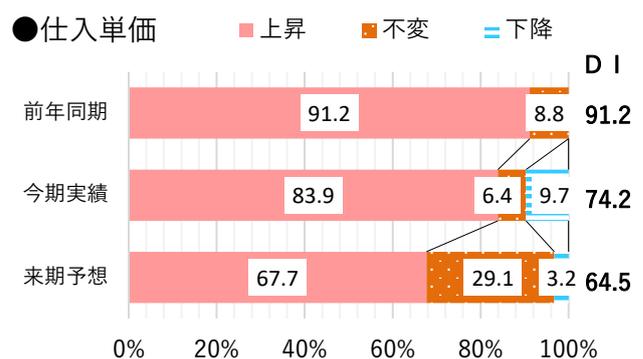
今期の売上単価DIは71.0で、前年同期と比べ12.2ポイント上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が大幅に弱まると予想しています。



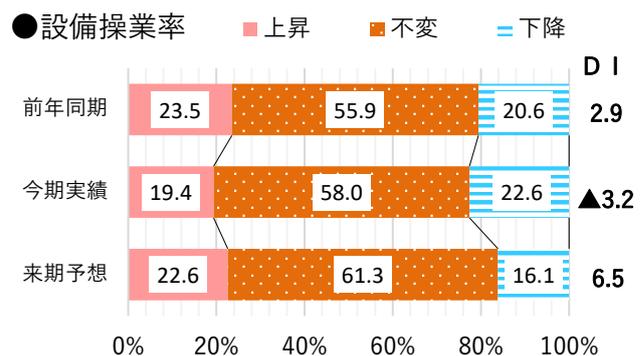
今期の仕入単価DIは74.2で、前年同期と比べ17.0ポイント低下しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは▲3.2で、前年同期と比べ6.1ポイント低下し、マイナスに転じました。

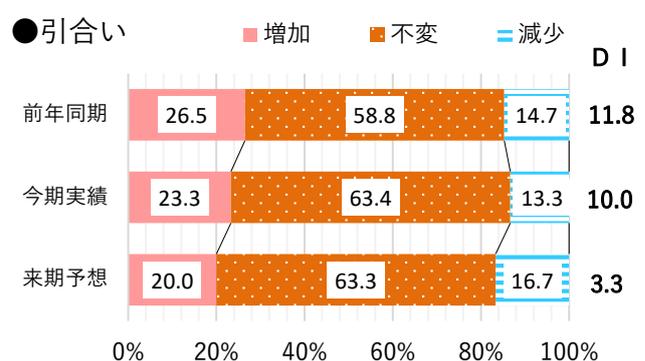
来期は、設備操業率がプラスに転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは10.0で、前年同期と比べ1.8ポイント低下しました。

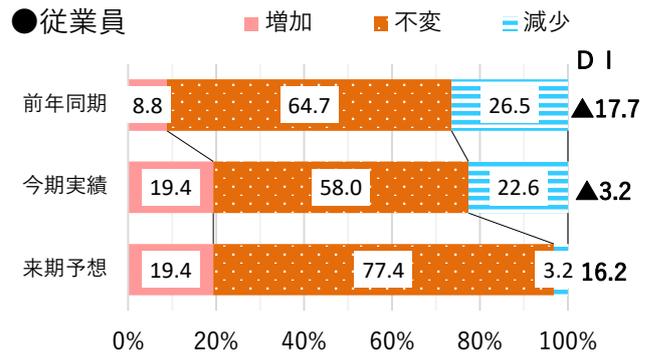
来期は、引合いの増加傾向が弱まると予想しています。



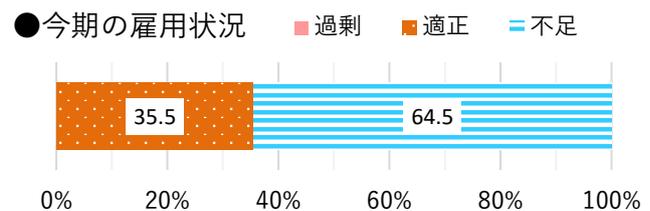
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲3.2で、前年同期と比べ14.5ポイント上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は35.5%、不足していると回答した企業の割合は64.5%でした。



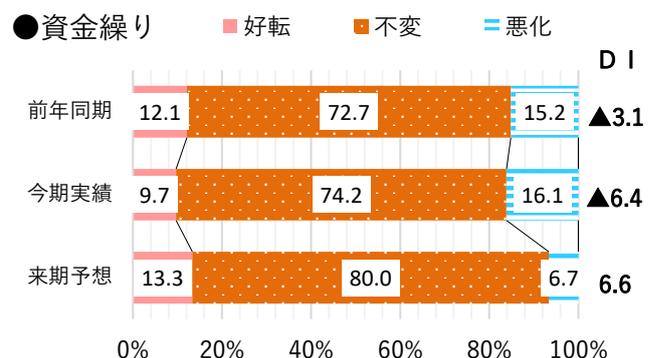
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、29.0%を占めた「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答でした。6割超の企業で従業員が不足している状況にあります。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	4
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	9
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	7

資金繰り、設備投資

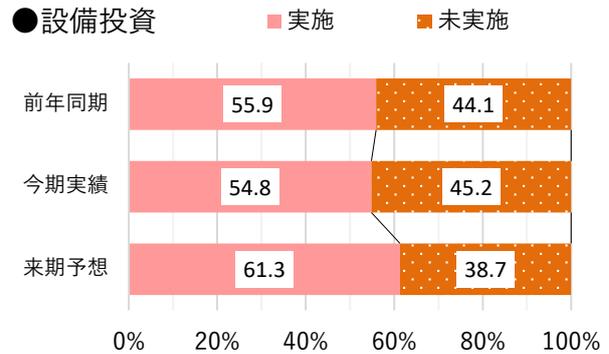
今期の資金繰りDIは▲6.4で、前年同期と比べ3.3ポイント低下しました。

来期は、資金繰りがプラスに転じると予想しています。



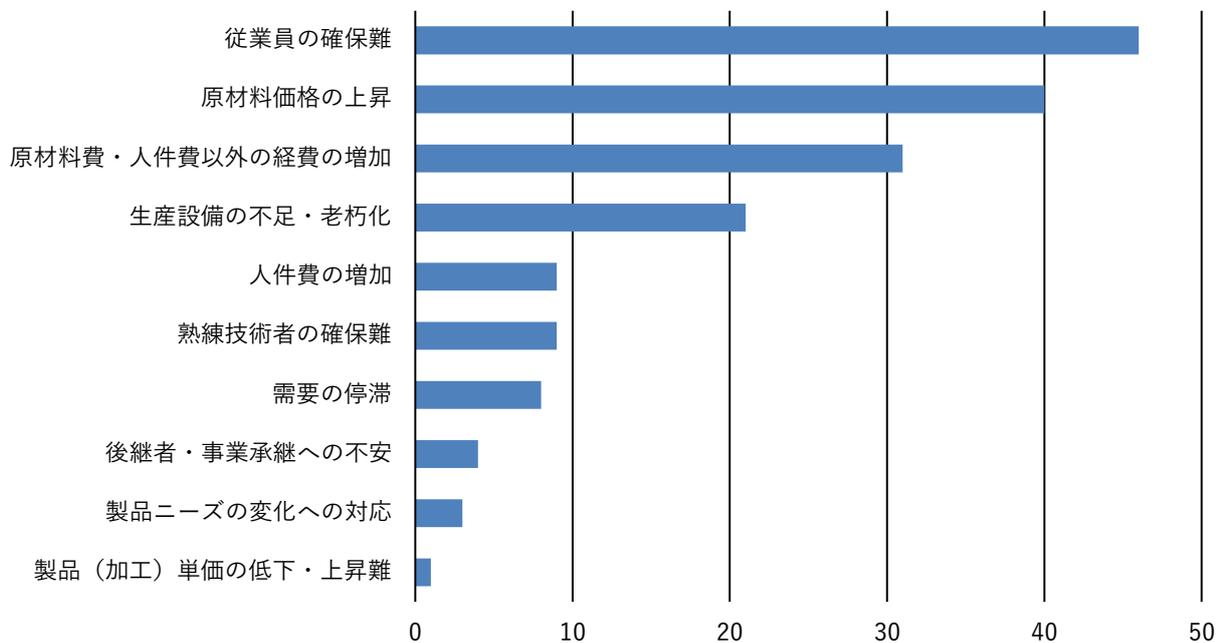
設備投資を実施した企業の割合は54.8%で、前年同期と比べ1.1%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は61.3%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「従業員の確保難」、2位が「原材料価格の上昇」、3位が「原材料費・人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 札幌駅周辺やラピダスなど大型案件の話は多いが、原材料価格や労務費の上昇による急激な建設コストの高騰により施工単価が合意に達せず、計画延期や中止も確認され、不透明感が強い。(金属製品)
- 商品の需給バランスの変化と好天に恵まれたことで、夏物商品の価格改定は比較的順調に進んだが、依然として仕入価格の上昇、運賃を始めとする諸経費の上昇、人材確保は困難な状況だ。(食料品)
- 原材料の仕入価格上昇により採算が悪化した。深刻な人手不足のため出荷の遅れが常態化しており、売上につながらず苦しい状況だ。(食料品)
- 売上は横ばいで、仕入価格は上昇傾向にある。年末に向けて人員は確保できている。(食料品)
- 売上は増加したが、原材料価格や資材価格高騰の影響が大きい。(食料品)
- 従業員を募集しても応募がない。(食料品)
- 外国人観光客の増加により業績が回復傾向にある。(飲料)

- 業務用商品の売上が増加した。（飲料）
- 製品の値上げにより、売上は1割程増加した。原料を安価なものに切り替えたことで、仕入価格はやや減少した。電気料金や物流コストの増加、大手販売先への価格転嫁が課題だ。当面必要な従業員数は確保できており、賃金のベースアップを実施した。（プラスチック）
- 価格転嫁は一部を除き完了した。原材料仕入価格は高騰が続いている。パートの時給を1,000円以上に引き上げたが、求人に対する反応はない。（プラスチック）
- 売上は対前年同期比で5%～10%のマイナスだった。現場技術者の確保が課題だ。（プラスチック）
- 生産の効率化により、業況が好転した。（ゴム製品）

[来期の業況について]

- 今期同様、工事の計画延期や中止に至るケースも考えられるため、不透明感が強い。（金属製品）
- 秋冬商品の価格改定の幅が大きいので、販売数量への影響の予測が難しい。また、円安やエネルギー価格の上昇、人材確保難、最低賃金の上昇などによる利益の下押し圧力の影響も予測できない。（食料品）
- 今期の設備投資により作業効率を高める。新商品の開発により、売上の増加も見込める。（食料品）
- 商品の値上げにより採算の好転を見込むが、出荷の遅れは年末に向けて深刻になる。（食料品）
- 人材が集まらなければ、事業の縮小も視野に入れなければならない可能性がある。（食料品）
- 新規事業による業績の好転を計画している。（食料品）
- 電気料金の上昇による採算の悪化を見込む。（食料品）
- 業務用商品の売上がさらに増加する見込みだ。（飲料）
- 新製品の発売により、売上の増加を期待する。（飲料）
- 例年通り販売重量の伸長を見込むが、製品価格の引き上げは難しいため、売上の増加は少ないと思う。仕入価格は原油価格の高騰と円安により1割程増加を見込む。原油は1バレル90ドルを超過しているが、さらなる上昇も予想される。（プラスチック）
- 新規受注もあるが、住宅事情により建材の売上の見通しが立たない。（プラスチック）
- 運賃等への価格転嫁が必要となる。（プラスチック）
- 引き続き生産効率化に取り組む。（ゴム製品）